

はじめてみよう！

ルール駆動開発

全開発者必見！

レガシーモダナイズを成功させる開発手法



Red Hat

登場人物

Y社

香澄

IT部門に所属
入社5年目 本作の主人公

佐藤

IT部門の部長 香澄の上司

朋子

営業部門に所属 香澄の同期

荒木

人事総務部門のスペシャリスト

HIKARI



Y社のレガシーな人事総務システム

レッドハット社

高橋

ベテランアーキテクト

ストーリー

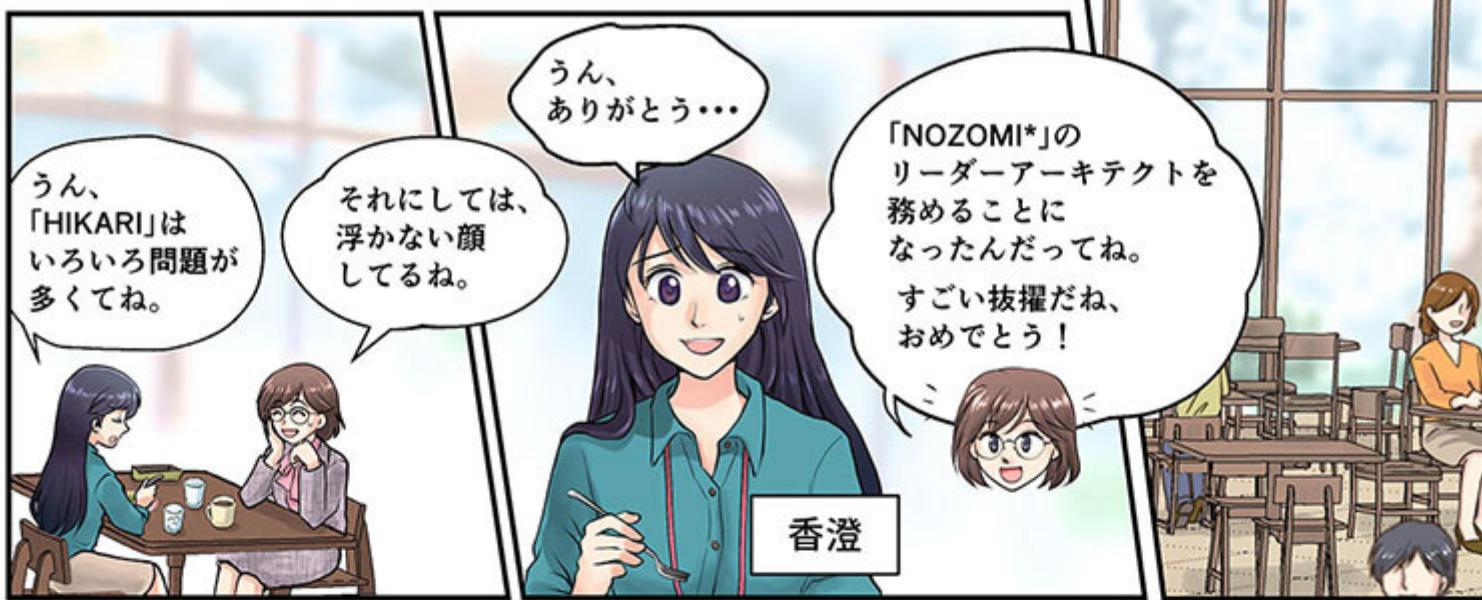
「HIKARI」は約20年前からあるY社の人事総務システム。ホストで動いていたが、10年前にオープン化。

その後も機能拡張やDBリプレースなど続けてきたが、グループ会社の統廃合により、システム間連携の必要性や、保守費の高騰等の理由で、5年前に全面刷新の計画が立てられた。

IT部門の精鋭と既存ベンダーとでチームが作られ、複雑化した「HIKARI」の全体を分析するところから始まったが、1年たっても現行解析に終わりが見えず、新システムへの要求も膨れ上がり、刷新の見積もりすら出来ずにいた。現行システムの改修もストップしたままで、何一つ成果を出せず、2年目にリプレース計画の中止が決定された。ストレスフルな環境下で体調を崩す者や退社する精鋭も多かった。

既存ベンダーにすでに支払った額は大きかったが、この失敗を受けて、無償でサポート延長をする契約が結ばれ、レガシーなシステムはその後もY社の人事総務を担い続けることに。

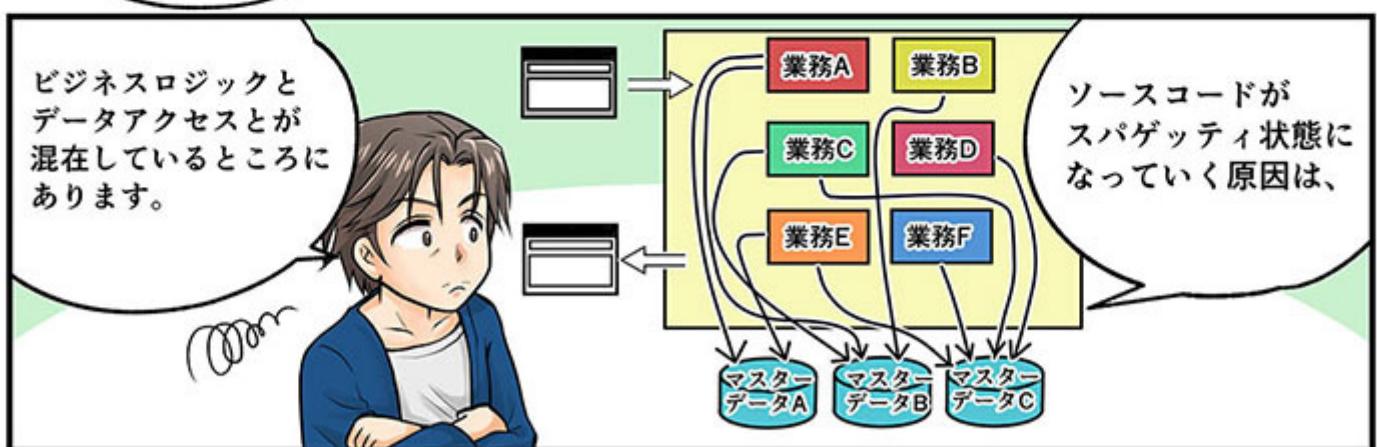
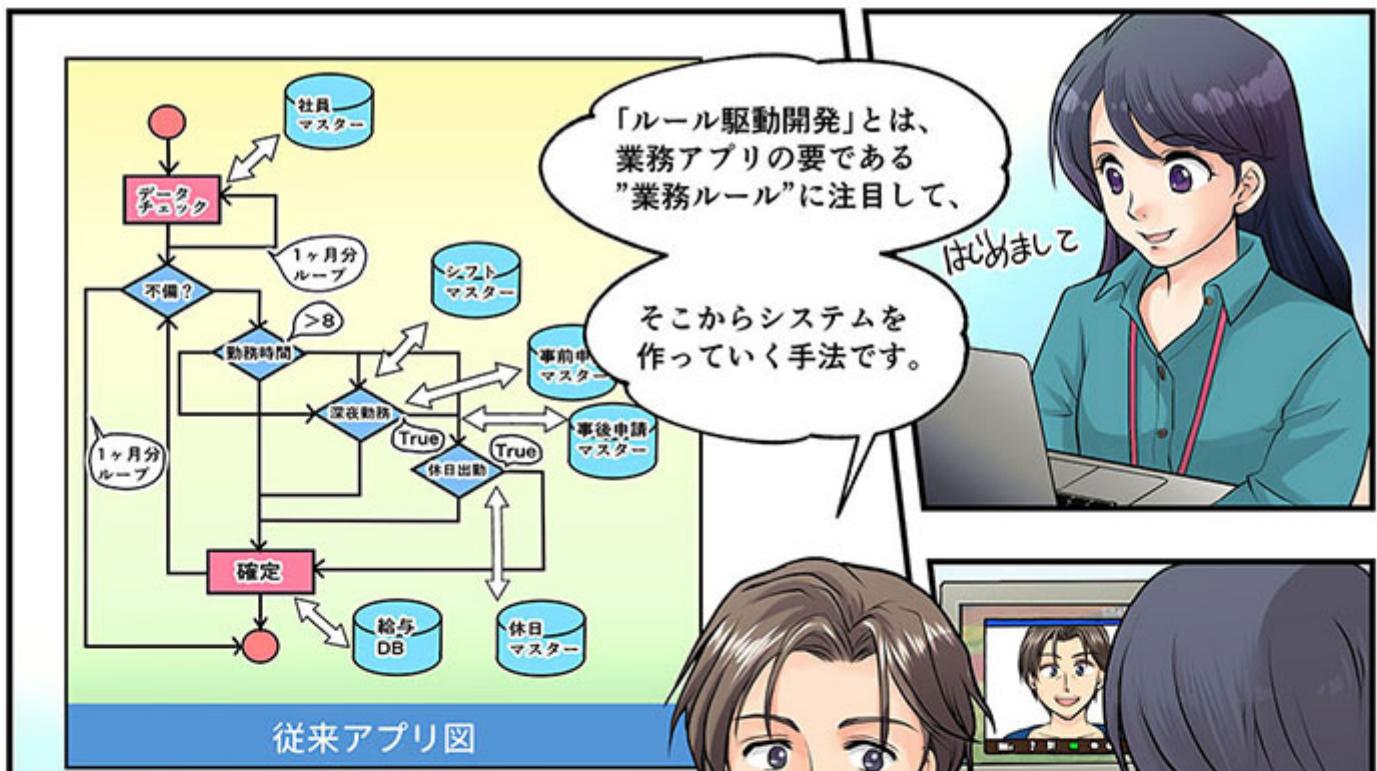
しかし、このたび「HIKARI」の再びの刷新プロジェクトとして、「NOZOMI」プロジェクトが開始されることになった…！

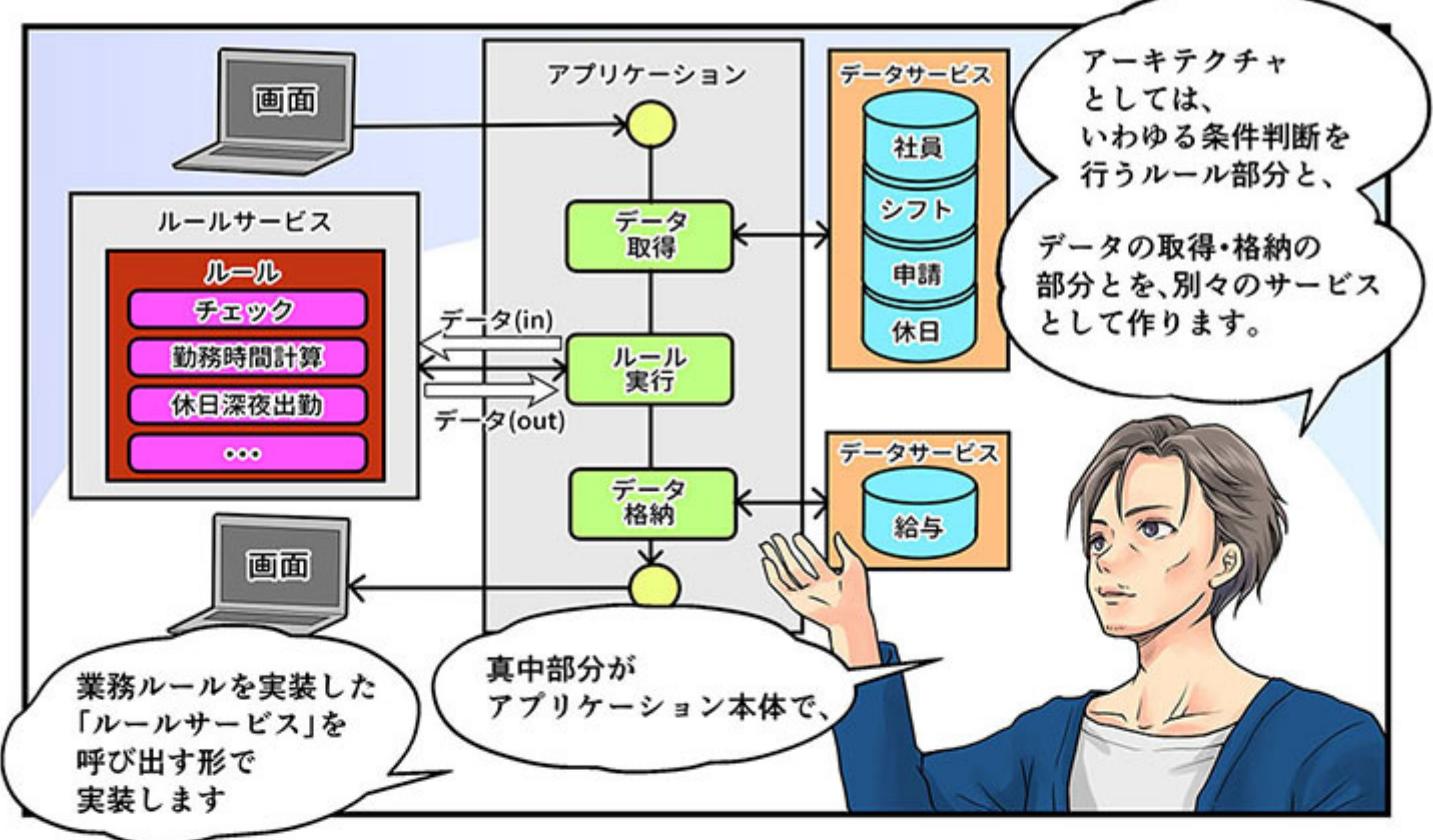


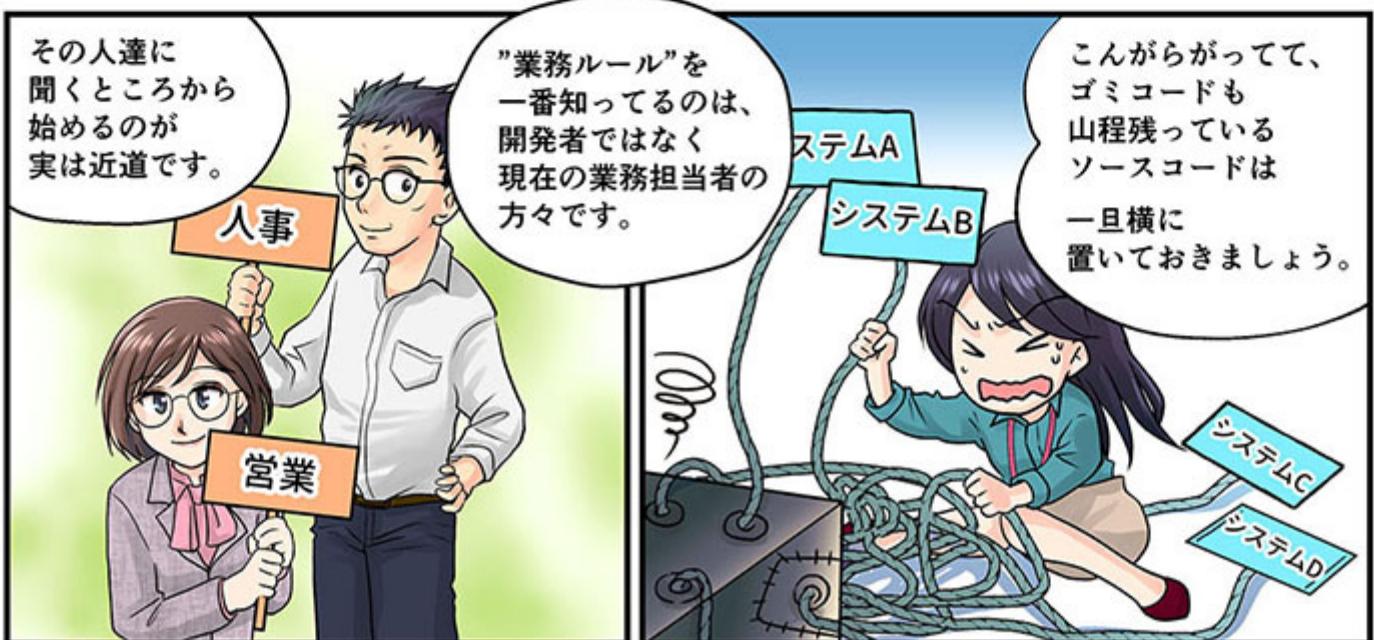
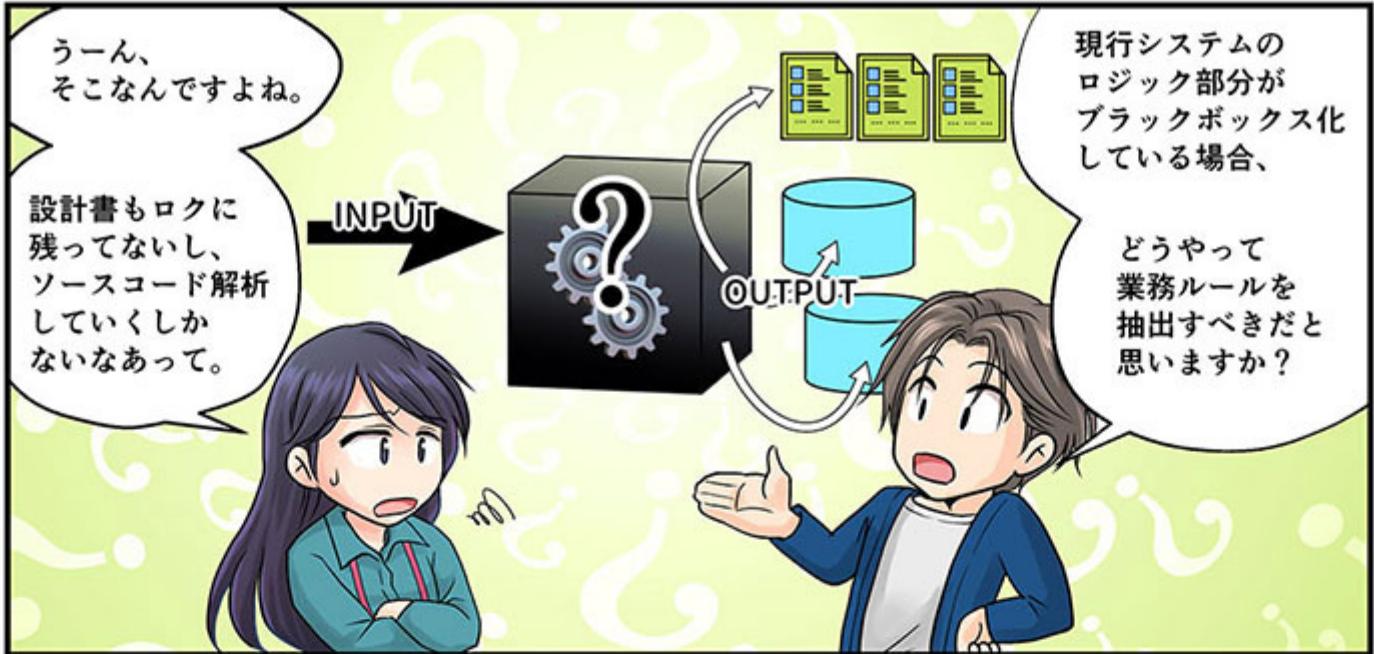
*HIKARIのリプレースプロジェクト

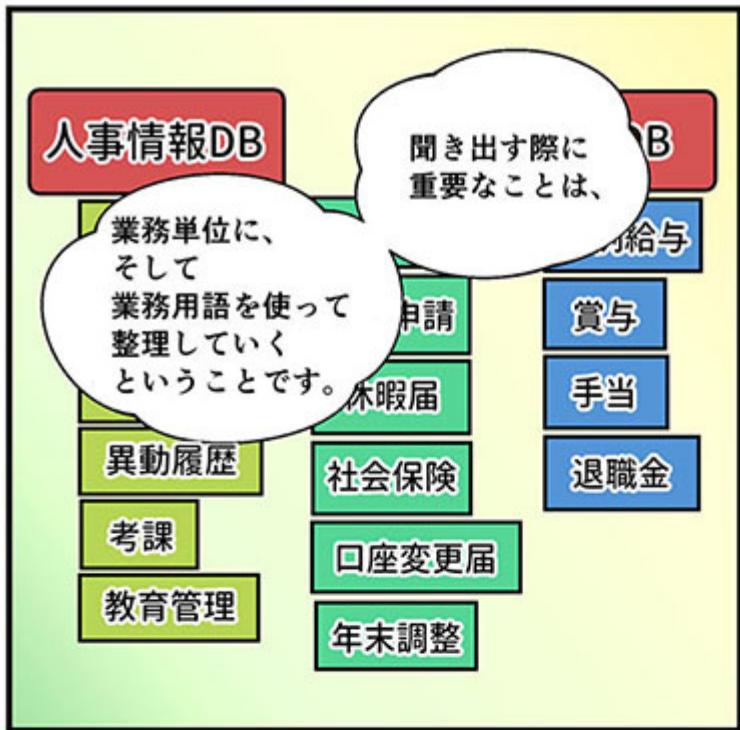
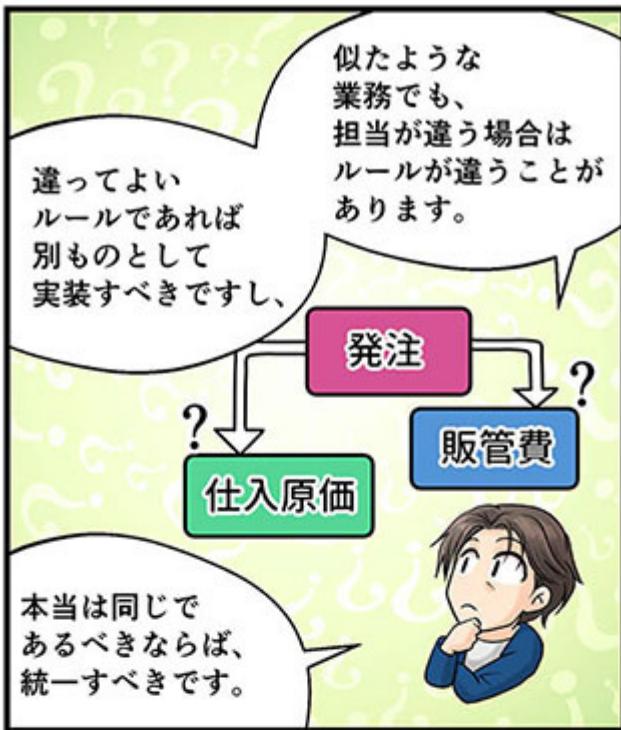














Red Hat Decision Manager

条件
(○○ならば)

アクション
(▲▲する)

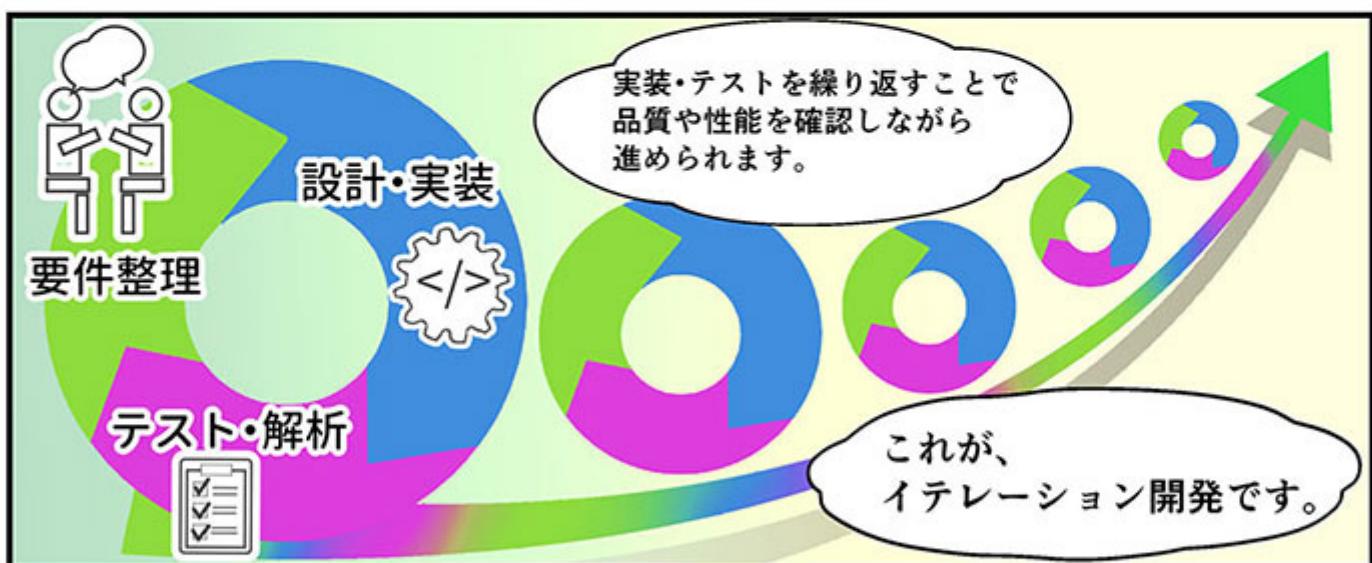
ルールエンジンは、
○○ならば▲▲する、
といったルールを
直感的に実装して、
しかもそれを
効率よく動作させる
仕組みです。

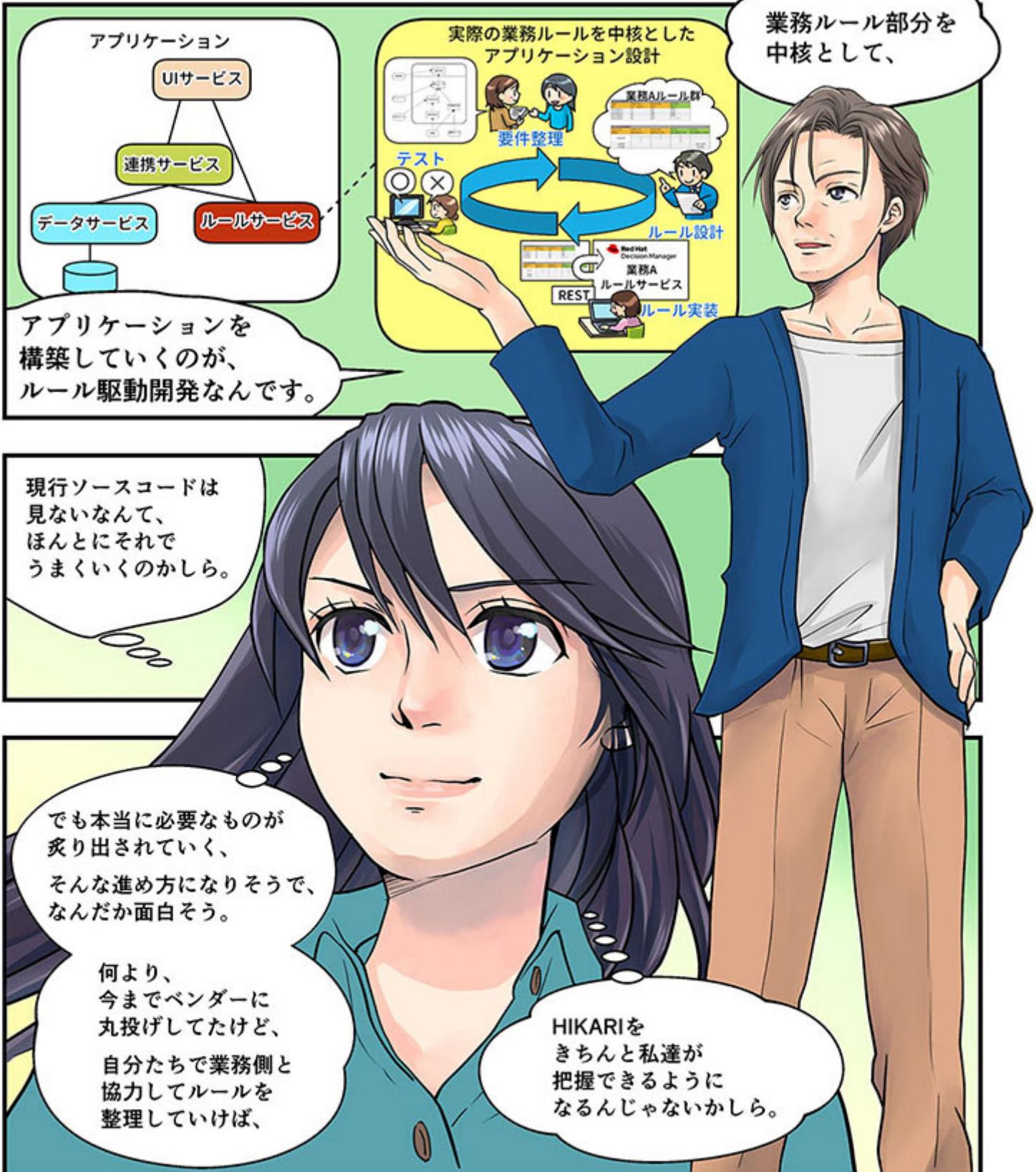
RuleTable キャンペーンポイント率ルール

キャンペーン名	CONDITION		ACTION	
	対象日	購入金額	ポイント	
文化してる?	11/3 11/23	¥4,999	0%	
		¥5,000	10%	
		¥10,000	20%	
Black Friday	11/24 11/30	¥3,999	0%	
		¥4,000	20%	

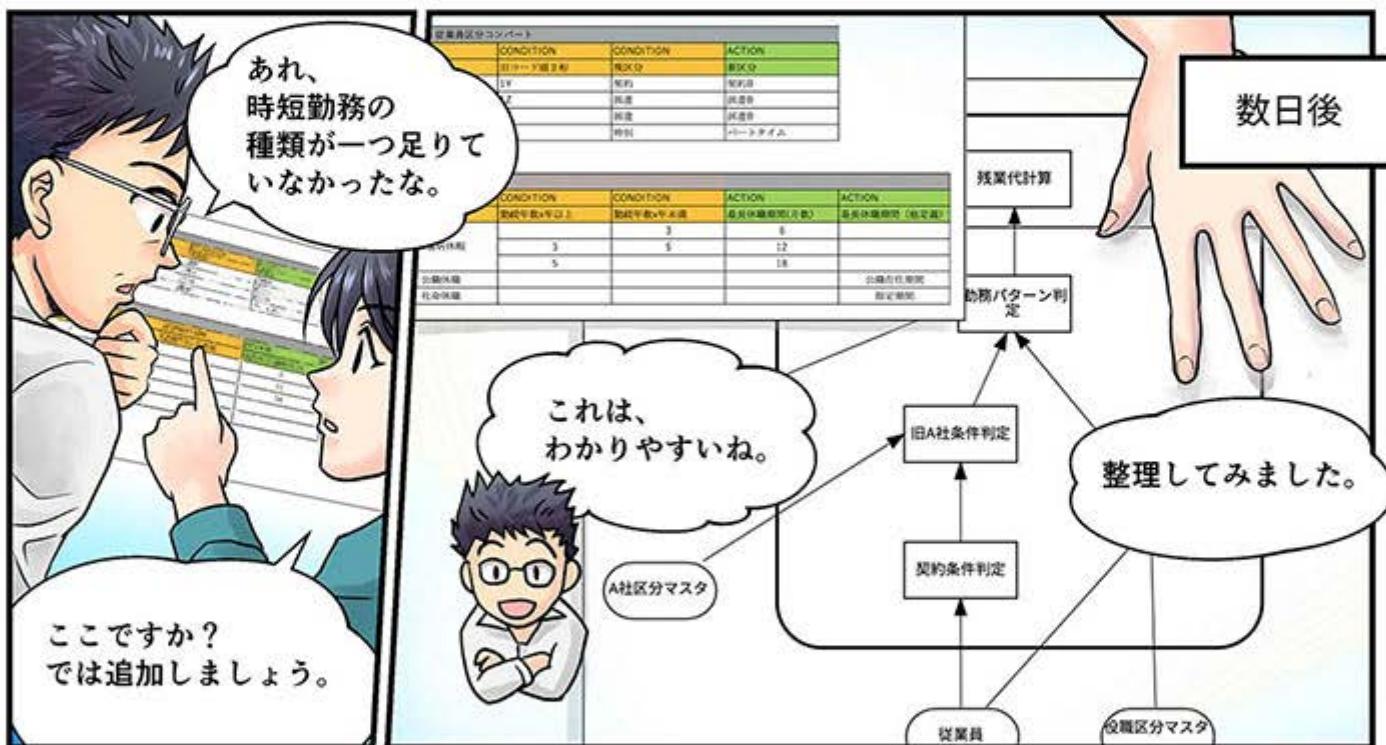
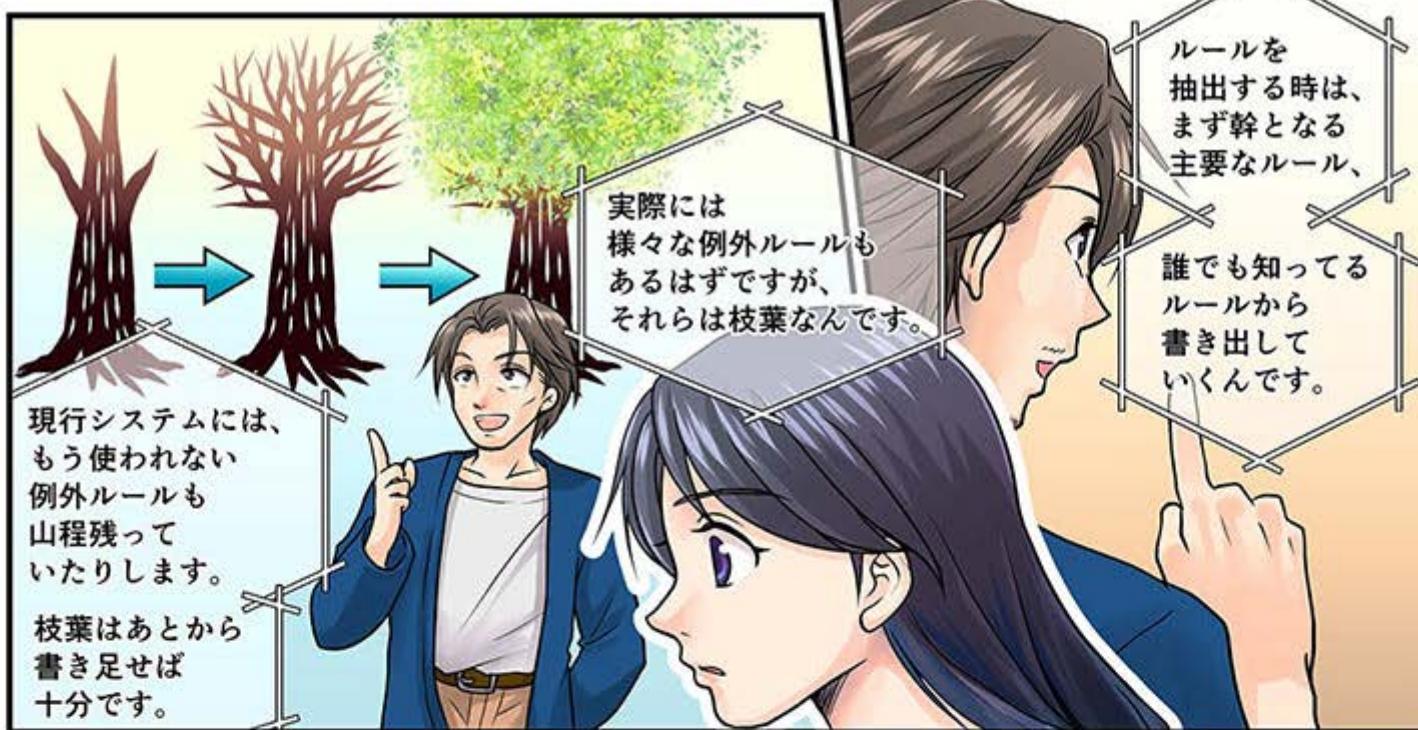
業務ルールを
こういった形式で
整理することで、
認識齟齬がないかどうか
常に確認しながら
進められるし、

手











はい、
ありがとうございます。
総務の荒木さんに
協力いただいた
おかげです。

複雑で大規模に
見えていましたが、
整理してみると
実際に必要なところは
半分ほど
だったみたいです。

しかも、
今までの計算式の
間違いを
発見出来ました。

テスト導入とはいって、
勤怠業務部分を
三ヶ月で
作り変えたってね。

会議室

総務部長から、
「うちのIT部門だけで
ここまでできるとは
思わなかったよ、
すごいね」
とのコメントを
もらってるよ。

佐藤

ルールが整理され、
可視化されたので、
誰が見ても
わかりやすく
なりました。

今後もこの形式で
きちんと統制をかけて
メンテナンスをしていけば、

中身がブラックボックス化
することはないと思います。

「わかりやすくて
正確だから、
現行システムでは
出来ていない
ルールの修正も、
新しい方に入れて
結果を見ている。」

それに
現場からは、

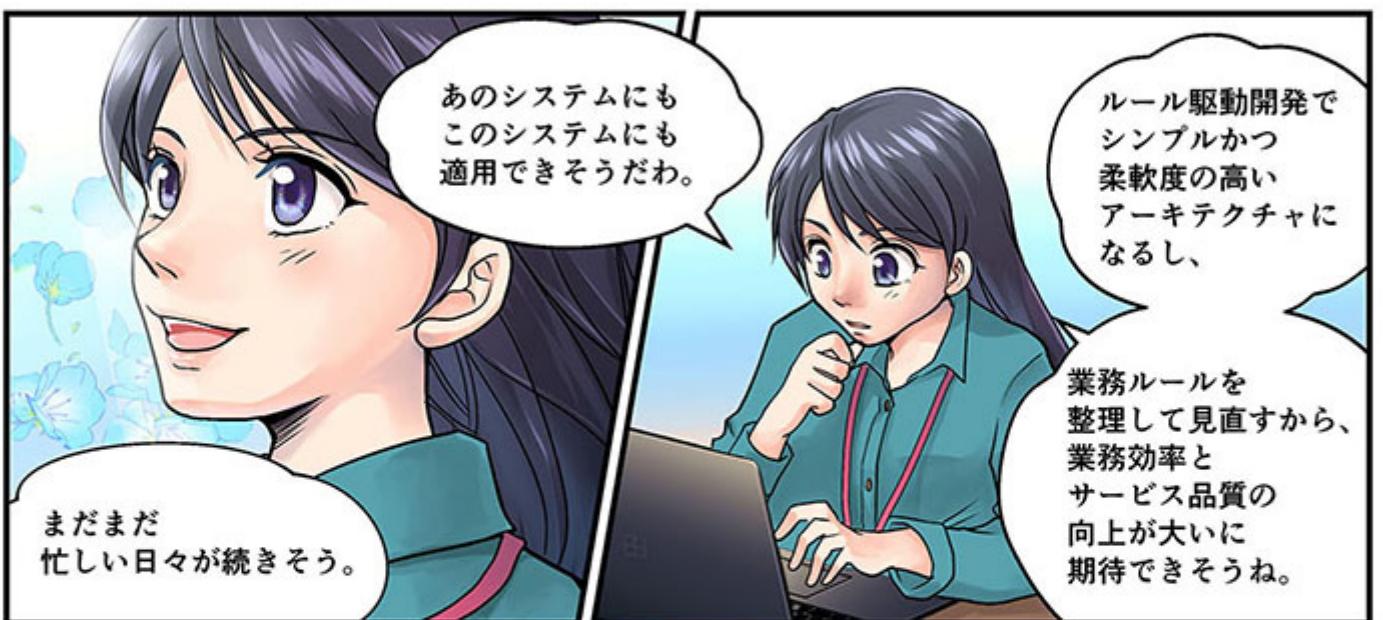
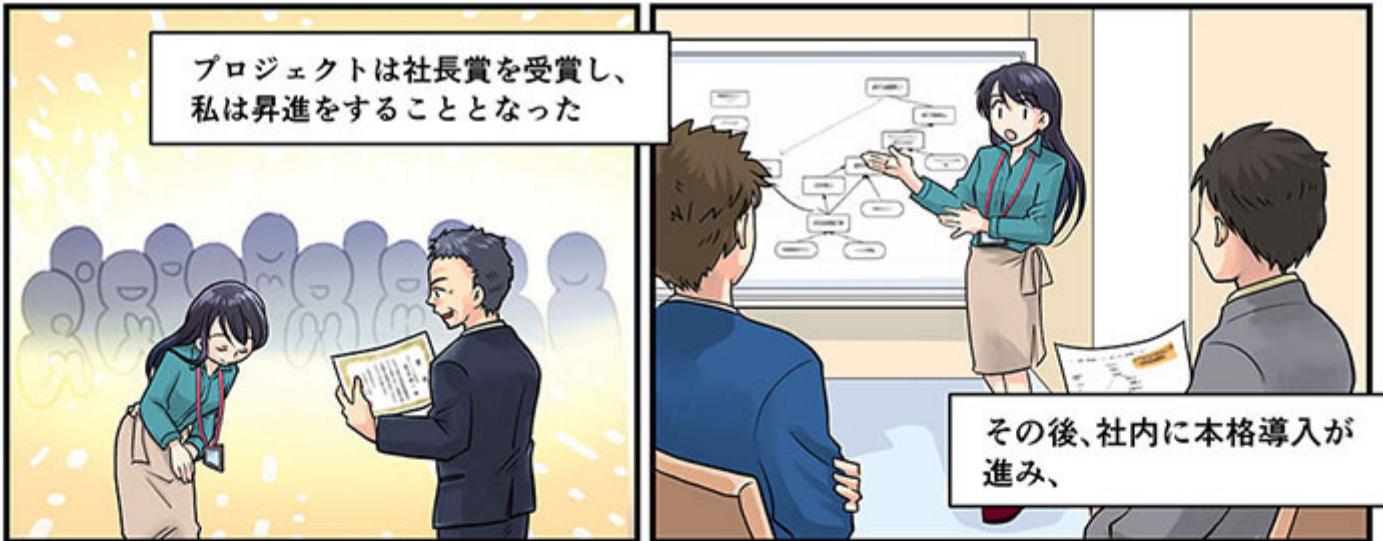
というコメントを
もらってるよ。

品質も
良いものが
できたようだね。

いいね。
業務部門の
要望を整理して、
管理する、

内製化への
舵を切ろう。

それでこそ、
IT部門の
存在意義がある
というものだね。



モダナイゼーションで利用されるレッドハットの主要な製品群

モダナイズの成功に
必要なルールエンジン



Red Hat
Decision Manager *



Red Hat
Consulting

ルール駆動開発の
支援をいたします！



Red Hat
Process Automation Manager *

業務のタスク管理や
進捗管理にどうぞ

マイクロサービス化の
必須アイテム



Red Hat
AMQ

システム間連携と
サービス連携の決定版



Red Hat
Fuse

新しい API ビジネスは
いかがですか？



Red Hat
OpenShift
Container Platform

コンテナ環境といったら
コレでしょ！



Red Hat
3scale API
Management



Red Hat
Data Grid

超高速処理を可能にする
In Memory DB



Red Hat
Ansible Automation
Platform

運用よりもインテリジェンスに
モダナイズしましょ

全ての挿絵は @koyagi_rm さん！ Special Thanks!!

詳しい説明をご希望の方はレッドハット セールスオペレーションセンター

sales-jp@redhat.com までお問い合わせください。

* Process Automation Manager 及び Decision Manager 製品は Red Hat から IBM へ移管されました。Red Hat PAM/DM V7.13 が 2022年8月4日にリリースされ、Red Hat からの最終バージョンとなります。今後の製品バージョンは V8.0 から IBM よりリリースされます。IBM PAM/DM 8.0 は 2022年7月22日にリリースされました。
<https://access.redhat.com/articles/6968468>
<https://community.ibm.com/community/user/automation/viewdocument/faqs-ibm-process-automation-manage>

© レッドハット株式会社